

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 宮崎県宮崎市橘通東1丁目9番10号
管理機関名 宮崎県教育委員会
代表者名 黒木 淳一郎

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 宮崎県立飯野高等学校

学校長名 長谷川 岳洋

類型 地域魅力型

3 研究開発名

地域価値を創造するグローバル・ヒーロー育成に向けたカリキュラム開発および実践

4 研究開発概要

本校では、地域課題に関心がある生徒も多く、地域の団体と連携して生徒主体のイベント実践や継続的に様々な活動が行われるなど本校生が地域に欠かせない存在になっている。本校のある宮崎県えびの市でも社会課題を抱えており、地域課題を考えることが社会課題を考えることにも通じる。そこで、これまでの「地域学」を発展させ、新たな価値の創造と地域社会で活躍するグローバル・ヒーローの育成するための3年間を見通した地域課題解決学習のカリキュラムを開発を行う。開発・実践に当たっては地域の団体などと連携して、人材育成により地域創生の核となる高校を目指す。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- | | | | |
|-------------|--------------------------------------------|---|---------------------------------------------|
| ・学校設定教科・科目 | <input checked="" type="checkbox"/> 開設している | ・ | <input type="checkbox"/> 開設していない |
| ・教育課程の特例の活用 | <input checked="" type="checkbox"/> 活用している | ・ | <input checked="" type="checkbox"/> 活用していない |

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
津曲 洋一	えびの電子工業株式会社 代表取締役会長	
明石 秀人	明石酒造株式会社 代表取締役社長	
矢野 健二	宮崎国際大学 地域連携センター長・大学部長	
福永 栄子	株式会社アイロード 代表取締役社長	
石坂 乃里子	えびの里山の会 会長	

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

飯野高等学校を守り育てる市民の会

機関名	機関の代表者
えびの市	市長 村岡 隆明
えびの市議会	議長 竹中 雪宏
飯野高校同窓会	会長 宮浦 佳紀
えびの市教育委員会	教育長 永山 新一
えびの市自治会連合会	会長 平岡 哲朗
えびの市農業協同組合	組合長 小吹 敏博
えびの市商工会	会長 白石 昌彦
えびの市観光協会	会長 福元 英雄
えびの市地域婦人連絡協議会	会長 上原 聖
えびの市子ども育成連絡協議会	会長 築地 雅之
えびの市スポーツ協会	会長 赤川 一郎
えびの市社会福祉協議会	会長 瀬戸崎恵子
えびの市民生委員児童委員協議会	会長 上野 憲昭
えびの市教育・保育施設園長会	代表 友清 潤
えびの市青少年育成市民会議	会長 村岡 隆明
えびの市高齢者クラブ連合会	会長 木野 幸典
飯野高等学校PTA	会長 新村 りか
えびの市中学校校長会	会長 赤崎 好次
宮崎県議会	議長 中野 一則
えびの市PTA連絡協議会	会長 中野 岳則

魅力化コアチーム委員会

飯野高校魅力化校内推進委員会	指導教諭 梅北 瑞輝
VoiceGift Lilybell 代表	代表 遠目塚 文美
えびの市青年会議所	理事長 大門 哲也
明石酒造株式会社	常務 明石 太暢
大正大学 関西事務局	所長 山中 昌幸
NPO法人ニシモロベース	代表理事 上水流 秀明
PACHAMAMA	代表 鈴木 尚洋
えびの市企画課	課長 黒松 裕貴

HANNAH	代表 村上 大輔
(株) BEBUYA	代表 坂元一貴

8 カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	山中 昌幸	大正大学 大学教員	
海外交流アドバイザー			
地域協働学習支援員	遠目塚 文美	VoiceGift Lilybell 代表	

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
カリキュラム開発支援				コアチーム委員会			コアチーム委員会	運営指導委員会				運営指導委員会
県内校、行政との連携				MSECフォーラム			先端校サミット					

(2) 実績の説明

管理機関として、運営指導委員会や魅力化コアチーム企画委員会など適切な時期に開催することにより研究開発が円滑に進むよう取り組んだ。この結果、事業最終年度となった今年度は、独自のカリキュラム開発がさらに進んだ。

また、研究指定校の取組みが県全体に波及させる取り組みとして、県内の県立高校が加盟するMSECの協議で探究的な学びにおける意見交換会を設けた。さらに、知事部局の総合政策課がすすめる「ゆたかさ指標」事業でも連携サポートを行った。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施期間											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域学のカリキュラム開発	実践	研修会	指導 助言	コアチーム 委員会			コアチーム 委員会			コアチーム 委員会	研究会	→
カリキュラムマネジメントの研究	実践		研究 授業			研究 授業	研修会				研究会	→
全国グローバルリーダーズ summit						企画		準備			開催	→
視察研修					SR サミット	SCH シボ				マイプロ サミット		

起業プロジェクトの実践			企画	準備	実践			合宿	実践	企画	プレゼン	→
-------------	--	--	----	----	----	--	--	----	----	----	------	---

(2) 実績の説明

①地域との協働による探究的な学びの教育課程内の位置づけ

学科・コース	学年	科目名	単位数	備考
普通科・生活文化科	1年	えびの学	1単位	※学校設定科目
普通科総合コース	2年	地域貢献活動	2単位	
	3年	地域貢献活動	2単位	
普通科探究コース	2年	地域探究活動	2単位	
	3年	地域探究活動	1単位	
生活文化科	2年	※家庭科専門科目内での実施		※一連の活動を地域支援活動と位置付け
	3年	課題研究	4単位	

②えびの学

総合的な探究の時間を代替する学校設定科目であり、全学科の1年生が対象である。“地域で探究の基礎を学ぶ”ということをコンセプトにした内容としている。この中で、地域課題を知り考えること、地域課題から問を立てること、情報収集・分析の方法について学ぶ、3日間の地域実習の実践、プレゼンテーション、自分や地域の未来を考えることをふまえた1年間のカリキュラムとした。

1 学 期	適正診断	自己分析する資料となる診断テストを実施
	地域の職業を知る	地域サポーター(事業者)へのインタビューを行う。
	飯野高の活動について知る	3年生が取り組んできた探究活動について話を聞く。
	未来予想図づくり	インタビューした事業者等についてまとめ、仕事図鑑を作成する
2 学 期	地域実習に向けて (問を見つける・情報を収集する)	地域課題について調査し、そこから自分なりの問を見つけるワークを行う
	地域実習 (実習を通して自らの問を考える)	3日間の実践を通して自らの問について考える機会とする
	実習成果発表会 (論理的に考え、表現→プレゼン)	実践から得られた知見から問の答えを考え資料としてまとめプレゼンを行う
3 学 期	地域・自分のミライを考える	2学期までの活動やグローバル学習成果発表会を通して地域・自分のミライを考える
	新たな問を見つける	1年間の活動を通して2年生以降に向けたテーマ設定を行う

③地域貢献活動

えびの市内の公共機関等の協力を得て、各施設において普通科総合コースで実践する科目である。柱となるのは、毎週水曜日の午後に地域の事業所で1年間実習する取り組みとなっており2年間で4単位の必修科目である。内容としては、2年生の4～7月にえびの市の出前講座を活用して市内の実情について学び、その後9月～3年生の7月まで事業での実習を行う。この間、事業所内外での課題解決や発展させるための新たな取り組みにつ

いて考え、企画・実践を行う。3年生の9月からは、1年間の実践について個人レポート、ポスター、プレゼンテーションにまとめる。これと並行してグローバル学習成果発表会実行委員会をたちあげ企画・運営を行い、地域をはじめ中学生なども対象に全学科コースの活動成果報告会の中心を担う。

2年													3年												
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
準備		出前講座																							
実践活動・テーマ活動（週2時間1年間）																									
リフレクション（振り返り）・個人レポート作成																									
													進路実現												

えびの市を考える

- ・対話型研修（全6回）
町づくり、歴史・文化、観光
農業、福祉サービス、地域おこし
- ・リフレクションワーク（講座毎）

地域実習に向けて

- ・実習先の選定、決定
- ・実習準備

地域実習（全32回）

全11の事業所ごとに1年間の長期実習

グループ協議（目標設定）→
実習→振り返り（課題→解決策）

※探究サイクル：各事業所における課題について
の解決策の提案、実践、リフレクション

活動成果のまとめ・表現

- ・地域実習成果レポート作成
- ・発表プレゼン作成
- ・学習成果発表会企画会議
- ・グローバル学習成果発表会

④地域探究活動

自分の身の回りや地域の課題、関心事から設定したテーマでプロジェクトをつくり実践する。この活動は、地域のみならず国内外の人とつながりインプット、アウトプットを繰り返しながら探究のサイクルをまわし社会課題解決に向けた方策について学びを深める。2年1学期は、様々な視点、実践のスキルを磨くインプットやアウトプットを行い2年2学期にマイテーマを設定する。テーマ設定にあたっては人生グラフや関心事からキーワードを出すワークを行う。また、プロジェクト化に向けてフィールドワークなど調査活動および準備をすすめ具体的なアクションについて考え実践する。実践後は、リフレクションを行いまた次の実践に向かう。このサイクルを繰り返し、3年生2学期以降は、実践のまとめとしてプロジェクトから得た学びを個人レポート、ポスター、プレゼンにまとめMSECフォーラムやグローバル学習成果発表会で成果を発表する。

2年													3年												
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
準備		探究テーマ探し																							
探究活動																									
実践																									
リフレクション（振り返り）																									
													進路実現												

地域から問を見つけプロジェクト化

- ・自分グラフ作成
- ・テーマ設定、情報収集
- ・3年生に聞く（ポスターセッション）
- ・課題解決策を考え実践計画を作成

課題解決策を実践する

グループ協議（企画立案）→
実践に向けた準備（※企画書の作成、
実践内容の決定、関係各処への依頼な
ど）→企画内容の実践→リフレクシ
ョン※このサイクルを3～4回行い、活動
の深化を図り、検証する。

活動成果のまとめ・表現

- ・個人レポート作成
- ・発表プレゼン（ポスター）作成
- ・ポスターセッション

⑤地域支援活動

2年生までに家庭科の専門科目内で全員で取り組んだプロジェクトをさらに発展させるため、えびの市内の事業所等の協力を得て生徒が事業所実習を毎週金曜の午後に実施する。まず、4～5月に地域の現状について改めて学び、5月下旬～10月末まで実習を行う。水曜午後の課題研究時にリフレクションや企画を行い専門科目のスキルを活かした企画・実践を行う。11月から活動のまとめとプレゼンテーションの準備を行い、グローバル学習成果発表会で地域をはじめ中学生なども対象に活動成果報告会を開催する。

2年												3年											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
準備		専門教科のプロジェクト						課題テーマ決定															
												課題研究（地域支援活動）の実施											
												リフレクションとまとめ											
												進路実現											

<p>専門教科プロジェクトに関わる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フードデザイン SAPと連携した地域特産物開発 ・ファッション造形基礎 子育て応援プロジェクト(小物製作) ・発達と保育 子育て応援運動会プロジェクト ・生活美学 高齢者支援プロジェクト 	<p>地域実習（全15回）</p> <p><small>全12の事業所ごとに半年間の長期実習グループ</small></p> <p>協議（目標設定）→実習→振り返り（課題→解決策）※繰り返し ※各事業所における課題について</p> <p>専門教科の技術・視点からの解決策の提案、実践、リフレクション</p>	<p>活動成果のまとめ・発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習レポート作成 ・発表プレゼン作成 ・グローバル学習成果発表会
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

⑥評価について

各科目では評価基準を設け、生徒の活動を評価する。例えば、「地域貢献活動」の前半の活動は、観点①、②、④を中心に評価を行う。後半からの実習は、観点①、③、⑤を中心に評価（各施設に評価を依頼）を行う。まとめの活動は、観点①、②、④、⑤を中心に評価を行う。

※例：地域貢献活動の評価基準

観点	①主体性	②課題解決に向けた姿勢	③企画・実践力	④情報収集・分析能力	⑤コミュニケーション能力
評価基準	他人との関係性、社会との関係性、環境との関係性を認識し、地域社会に対する関心を高めるとともに、社会人としての自分を意識し、主体的に自分を成長させていく。	えびの市の地理的、歴史的特性と経済産業的な状況を理解し、社会的諸問題を解決するための思考力や判断力を身に付ける。	長期の実習経験を活かして円滑に行うための工夫をする力、失敗、反省をもとに新たなアイデアなどから考えた企画・実践をおこなう力を身に付ける。	職場業務の担う役割を理解し、勤労に意義や責任を感じられる職業観を身に付ける。自己の長所短所を把握し、より良い社会人に向かう自己改革に目覚める。	さまざまな年齢の人と関わりながら業務を遂行することで、相手の立場や考えを理解し、状況に応じて自分を表現する能力を高める。

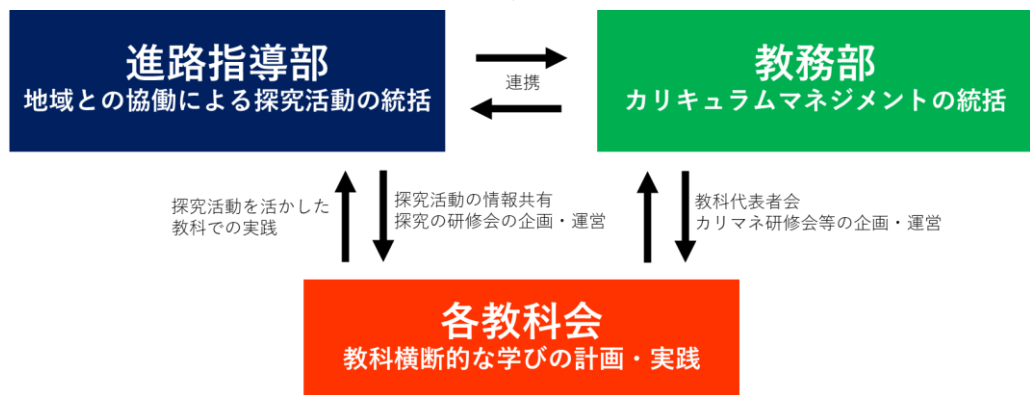
⑦地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における取組

開発した②～⑤のカリキュラムでは、インプット、アウトプットの機会を活用しながら教科的な要素を入れていくことも取り組んできた。また、教科学習の中でも学年・コースに応じて、どのような指導を行っていくか研修を行い職員全体で探究を柱としたカリキュラム・マネジメントに取り組んでいる。

実施内容	詳細
カリキュラム・マネジメント研修会	昨年度までの取り組みをふまえて教科横断のグループで各教科の実践について協議→各科目で実践

カリキュラム・マネジメントの推進体制

以下のように校務分掌と各教科会が連携して実践している。



⑧学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

統括する進路指導部が企画・立案を行い、魅力化コアチームに所属する担当職員がコアチーム構成員の意見を踏まえカリキュラム開発を行う。また、学科・コース会議にすべての教員が所属し、実践する上での学習内容や指導の共有を行っている。また、これらの活動を支援するため、事務局に地域協働学習実施支援員、魅力化コアチームにカリキュラム開発等専門家を配置して、活動の支援助言等を行っている。

⑨研究開発の進捗管理、定期的な確認や成果の検証・評価、計画・方法の改善について

進路指導部を事務局として地域協働推進校としての研究開発全般のマネジメントを担う組織として進めている。事務局は、魅力化コアチームへの原案提示、事業の企画調整、関係機関との連携調整、予算の執行等を担当する。また、校長、教頭、事務長および各校務分掌の主任で構成される運営委員会で事務局がすすめる進捗管理、成果の検証・評価、計画・方法の改善について協議を行い事業の目標が達成されるよう進めている。

⑩コンソーシアム、運営指導委員会の指導助言および専門家からの支援について

魅力化コアチーム委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・事業のまとめと次年度に向けた取り組み ・共学共創の地域における探究学習の在り方 ・地域サポーター制度の取り組み ・カリキュラム開発専門家による研修会
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

運営指導委員会	事業を通しての成果として以下を示していくことが重要 <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム開発及び実践による生徒の変容 ・カリキュラム開発及び実践による教員の変容 ・取り組みの一般市民への周知 ・探究的な学びを活かした教科学力の向上 ・県全体の教員の意識改革のパイオニアになってほしい
カリキュラム開発専門家	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム内容改善についての助言 ・問いの設定について ・地域のパートナーとの連携について ・地域リサーチ方法・分析について

⑩成果の普及方法・実績について

校内外の研修会やメディアを通じて本校の取り組みを積極的に発信している。

- ・グローバル学習成果発表会の開催（県内外の高校、市内中学校、地域住民等 約 100 名）
- ・全国グローバルリーダーズ summit の実施（県内外の高校、市内中学校、地域住民等）
- ・宮崎県立都城商業高校職員研修
- ・えびの未来カフェの開催（本校生＋地域住民 90 名参加 ※オンライン）
- ・UMK（テレビ宮崎）のびよ みやざきっ子 によるグローバル学習成果発表会紹介
- ・MR T（宮崎放送）ニュース Next 「地域探究活動」紹介
- ・宮崎県知事表敬訪問（第 15 回マニフェスト大賞 優秀政策提言賞）
- ・宮崎日日新聞「地域貢献活動」「地域探究活動」「地域支援活動」掲載
- ・視察受入（静岡県立川根高校、熊本県立高森高校、松橋高校、八代高校、菊池高校、長崎県立上五島高校、宮崎県立本庄高校、宮崎県中小企業同友会）
- ・熊本県マイプロジェクト教育関係者研修会
- ・広島県教育委員会カリキュラムマネジメント研修会
- ・月間 先端教育
- ・地域開発「地域貢献活動」「地域探究活動」「地域支援活動」掲載
- ・朝日新聞社「地域貢献活動」「地域探究活動」「地域支援活動」掲載
- ・時事通信社「地域貢献活動」「地域探究活動」「地域支援活動」掲載

1.1 目標の進捗状況，成果，評価

事業最終年度の実践は、カリキュラム開発による成果があらわれた 1 年となった。事業に関するアンケート調査からも生徒の変容が見られ、地域との協働による探究に対する教員の取り組みも着実に前に進んでいる。以下は、アンケート（一部）から分かる事業の成果である。 ※下表の数値は肯定している生徒の割合（%）

地域、高校に応援する雰囲気がある	93.8	地域を外からの視点で考えてきた	95.4
地域に尊敬、憧れている大人がいる	75.8	探究を通して自分のできることややりたいことが増えている	92.2
地域の課題や事象に関心がある	89.6	この地域で働きたい	70.2

<添付資料> 目標設定シート

1 2 次年度以降の課題及び改善点

3か年にわたる事業を終え、本事業によるカリキュラム開発とその実践が、高校と地域による新たな教育の在り方や地域創生に寄与する人材育成の要になると確信している。地域をフィールドにした探究的な学びにより社会をより身近に感じ、自分事として取り組む生徒が増えている。このように「社会に開かれた教育課程」の実現とカリキュラムマネジメントの実践を次年度以降も継続して研究をつづけていく。また、今後も時代に応じたカリキュラムにできるよう常に前に進めていく体制を築いていきたい。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	0985-44-2601
氏名	重永 信祐	FAX	0985-26-0721
職名	指導主事	e-mail	shigenaga-nobuhiro@pref.miyazaki.lg.jp